

# dongleserver Pro

# Rack Mount Kit – RMK4

## クイックインストールガイド



## 概要

この「クイック・インストール案内」では、RMK4 の設置方法と初期セットアップについて説明します。

目次 ⇨ 1。

本製品の設定でお困りのときは、弊社のカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。



9：00～18：00 月～金曜日（祝日を除く）



0570-02-3666



support@seh-technology.jp



<http://www.seh-technology.jp>

一般情報 .....	2
目的 .....	2
マニュアル .....	2
責務および保証 .....	2
改造および修理 .....	2
組み立て作業の前に .....	3
技術仕様 .....	3
パッケージ内容 .....	3
安全規定 .....	4
警告 .....	4
準備 .....	5
設置作業：ステップ 1 .....	5
設置作業：ステップ 2 .....	6
設置作業：ステップ 3 .....	6
方法 1: 可動設置 .....	7
方法 2: 固定設置 .....	7
設置作業：ステップ 4 .....	9
設置作業：ステップ 5 .....	11
設置作業：ステップ 6 .....	13
設置作業：ステップ 7 .....	13
設置作業：ステップ 8 .....	14
設置作業：ステップ 9 .....	14
デバイスの利用 (Push-to-Open) .....	15
前面への引き出し .....	15
元の位置に戻す .....	16

## 目的

ラックマウントキット 4 (RMK4) は設置用フレームです。  
dongleserver Pro のサーバラックへの設置に使用します。



### 重要：

RMK4 は、設置奥行きが 37cm (14.6") 以上ある 19"サーバラック用に設計されています。

設置フレームはサーバラックにしっかりと固定する必要があります。  
内蔵のプッシュオープナー (push-to-open 技術) により、dongleserver Pro を設置フレームから前方にわずかに引き出し、再度元の位置に戻すことができます。  
このハードウェアインストール案内は、RMK4 を使用した dongleserver Pro のサーバラックへの設置を説明しています。設置フレームは、このマニュアルで説明する方法以外で使用しないでください。

## マニュアル

本マニュアルでは、dongleserver Pro を共に「デバイス」と呼びます。  
設置手順は dongleserver Pro を前提に説明しています。

## 責務および保証

安全規定と警告を遵守しなかった結果による、人への傷害や財産の損害および間接的損害について、SEH Computertechnik GmbH は一切の責任を負いません。  
遵守しなかった場合は保証に関する申し立ても無効となります。

## 改造および修理

ハードウェアの改造および修理は許可されていません。

## 📖 組み立て作業の前に

---

- 本インストール案内とすべての安全規定をよく読み遵守してください ⇨ 4。
- デバイスとサーバラックの安全規定をよく読み遵守してください。
- サーバラックのサイズと設定を確認し、そのデータを RMK4 のデータと比較してください ⇨ 3。
- パッケージ内容を必ず確認してください ⇨ 3。
- 設置に必要な次のツールや機材は製品に付属していません。
  - マイナスドライバ
  - プラスドライバ
  - サーバラックにマウントするための機材
  - ケーブル用の追加の機材

## 📖 技術仕様

---

- 幅： 483mm
- 奥行き： 193mm
- 高さ： 44mm
- 重量： 840g

## 📖 パッケージ内容

---

作業を開始する前にパッケージの内容を確認してください。

- 19" 設置フレーム (プッシュオープナー付き)
- 丸頭ネジ M3x5mm x 2
- 皿ビス M3x5mm x 1
- ケーブルタイ x 2 (再利用可能)
- 粘着テープ
- ハードウェアインストール案内 (本マニュアル)

# 安全規定

次の安全規定に留意してください。

- サーバラック、デバイス、および RMK4 に関する安全規定をよく読み遵守してください。
- RMK4 は本来の目的に従ってデバイスと一緒に使用する必要があります。
- サーバラックが安定していることを確認してください。
- ラック内のデバイスが十分に換気されていることを常に確認してください。また、できるかぎり近接する 19" ユニットの間にスペースを空けてください。デバイスの動作温度の許容範囲は、製品のマニュアルを参照してください。
- 設置方法は本マニュアルの記載に従う必要があります。
- 設置は、資格を持つ作業者のみが実行してください。
- 設置中および使用中には圧壊と傷害のリスクがあります。指や他の体の部位に注意してください。

## 警告

本書に記載されたすべての警告を読み遵守してください。警告は、危険とされるいかなる取扱説明より優先されます。次のように表記されています。



警告  
警告！

## 準備

デバイスを設置フレームに設置すると、機種ラベルが確認できなくなります。

1. すべてのデバイスデータを記録し、いつでも利用できるようにしてください。  
機種ラベルはデバイスの底面に設置されています。

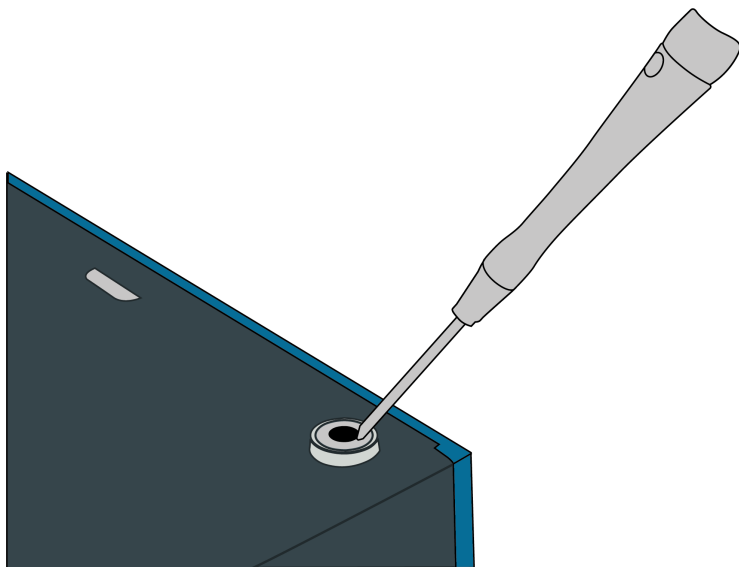
使用中のデバイスがある場合は、作業前に次の手順を実行してください。

1. デバイスから電源コードを取り外します。  
(電源の切断)
2. デバイスからネットワークケーブル (RJ-45) を取り外します。

## 設置作業：ステップ1

すべてのゴム脚をデバイスから取り外します。

1. デバイスは、安定した平面上に逆さまに置きます。
2. 小型のマイナスドライバを使用して、各ゴム脚からピンを取り外します。  
同時にゴム脚も取り外します。



3. 他のゴム脚で手順2を繰り返します。
4. デバイスの底面を下向きにして元の状態に戻します。



### 重要：

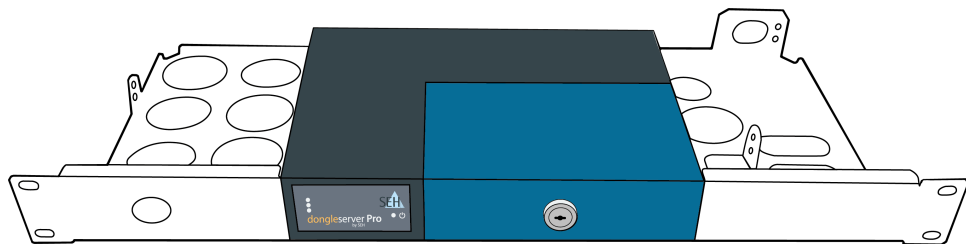
(ピンとゴム脚は、後で使用する可能性があるため、紛失ないように保管してください。)

## 📄 設置作業：ステップ 2

---

デバイスを設置フレームの中に置きます。

1. 設置フレームを安定した平面上に置きます。
2. デバイスを設置フレームの中に置きます。  
デバイスはガイドレール間にあり、デバイスの前面は設置フレームの前面と面一である必要があります。



## 📄 設置作業：ステップ 3

---

デバイスを RMK4 内部に設置するには 2 通りの方法があります。

- 方法 1：可動設置 ⇨📄7  
デバイスは、プッシュオープナー (push-to-open) を解除すると前方にわずかに引き出すことができ、作業後元の位置に戻すことができます。
- 方法 2：固定設置 ⇨📄7  
デバイスを所定の位置にネジで固定すると、設置フレーム内で動かなくなります。

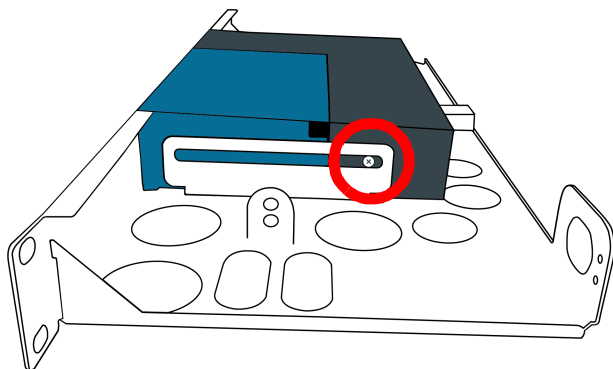
上記のいずれかの方法を選択し、対応する手順に従ってください。



## 方法 1: 可動設置

RMK4には中間に2つのガイド用穴があります。それを利用してデバイスを2つのネジで保持しながら自由に動くようにします。

1. 付属の丸頭ネジの1つを、デバイスの右側のネジ穴に取り付けます。

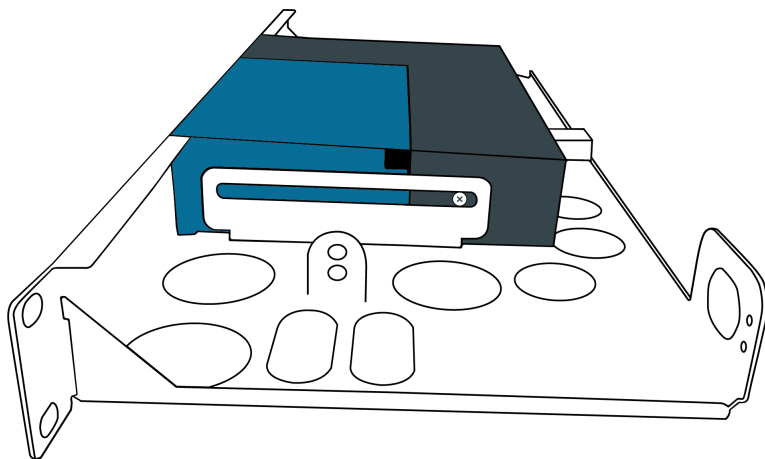


2. デバイスの左側で手順1を繰り返します。

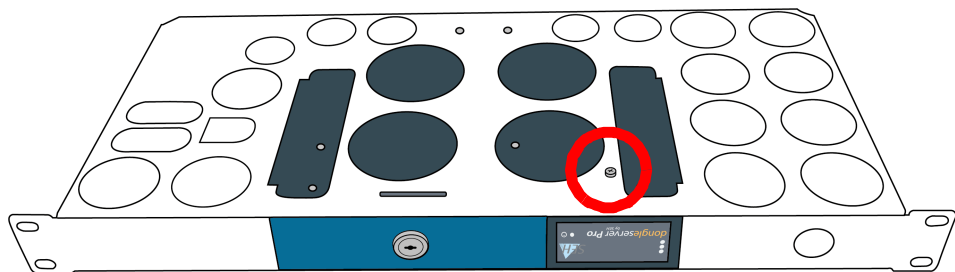
## 方法 2: 固定設置

RMK4には中間に2つのガイド用穴があります。最初に、それを利用してデバイスを2つのネジで保持します。次に、3つ目のネジをデバイスの下側に取り付け、デバイスを固定します。

1. 付属の丸頭ネジの1つを、デバイスの右側のネジ穴に取り付けます。



2. デバイスの左側で作業1を繰り返します。
3. 設置フレームをデバイスと一緒に上下逆さまにして、設置フレームの下側が上向きになるようにします。
4. 前面右側で、フレーム側の穴位置がデバイスのネジ穴の位置とそろいます。上記のネジ穴に皿ビスを挿入し、デバイスを設置フレームに固定してください。



5. 設置フレームをデバイスと一緒に上下逆さまにして、デバイスの上面が上向きになるようにします。

## 📄 設置作業：ステップ4

---

ネットワークケーブルをデバイスに接続します。



### 警告

取り回しの長さに余裕がないケーブルや必要な位置で固定しなかった場合、ケーブルが損傷するおそれがあります。

ケーブルの配線で次の点を確認してください：

1. 可動設置 (方法 1⇒7) を選択した場合、十分な長さ (遊び) があること
2. 張力が十分に緩和されていること
3. 十分に固定されていること

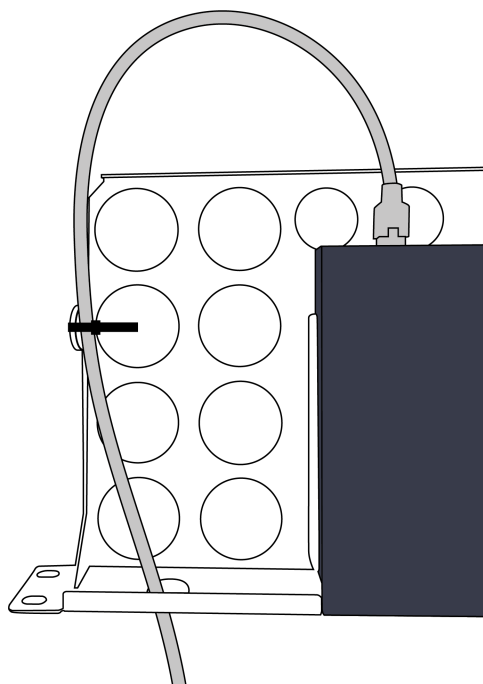


### 重要：

ネットワークケーブルは、ネットワークに接続していないときに接続してください。この手順は後述します。

1. ネットワークケーブル (RJ-45) をデバイスに接続します。  
ネットワークケーブルの取り回し方向には2通りあります：
  - 後ろ方向
  - 前方向：設置フレームの左前面に穴があります。

- 必要に応じて、ネットワークケーブルを(ケーブルタイなどで)設置フレーム左の外側にある張力緩和用ブラケットに固定してください。



## 📄 設置作業：ステップ5

電源コードをデバイスに接続します。



### 警告

取り回しの長さに余裕がないケーブルや必要な位置で固定しなかった場合、ケーブルが損傷するおそれがあります。

ケーブルの配線で次の点を確認してください：

1. 可動設置 (方法 1⇒7) を選択した場合、十分な長さ (遊び) があること
2. 張力が十分に緩和されていること
3. 十分に固定されていること

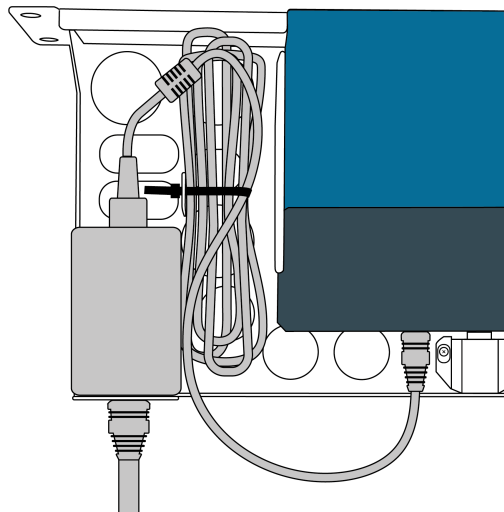


### 重要：

電源ケーブルは、主電源ケーブルに接続されていないときに接続してください。この手順は後述します。

1. 電源アダプタから電源コードを引き出します。
2. 粘着テープを、電源バックの下側の空白に貼付します。  
電源アダプタの上部には機種プレートがあります。
3. 電源アダプタを、粘着ストリップを下向きにして設置フレーム上に置きます。  
電源アダプタを設置フレームの後方右端になるように配置し、電源バックのソケットが張力緩和用開口部の内側で隠れないようにします。
4. 電源アダプタを設置フレームに強く押し付けて粘着させます。
5. 電源コードをデバイスに接続します。

6. ケーブルを電源アダプタとデバイスの間で、ケーブルタイを使用し結束します。ケーブルをデバイスの右側中央にある張力緩和用ブラケットに固定します。



7. 電源コードを電源アダプタに接続します。  
ソケットプラグ側のケーブル端は設置フレームの外側になります。



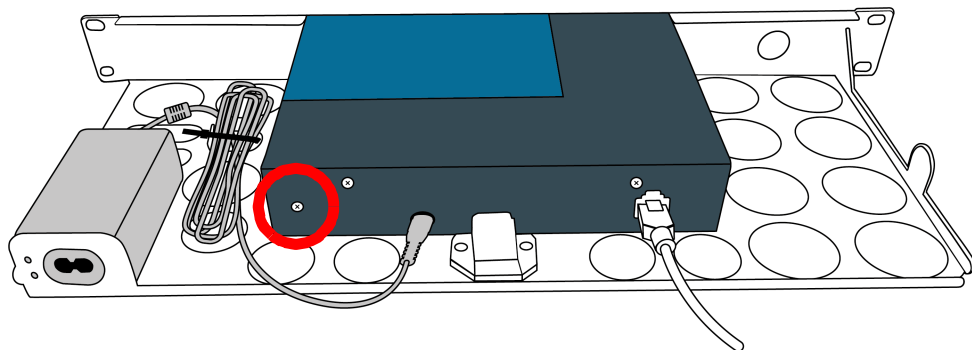
電源パックは、後で必要に応じて設置フレームから取り外すことができます。

取り外す場合は、設置フレームから剥がれるまで、電源パックを左側に注意しながら強く回します。

## 📖 設置作業：ステップ6

オプション：等電位ボンディング（等電位化）を作成します。

1. サーバラックの等電位ボンディングメカニズムを、デバイス後方の左側のネジに接続します。  
接続方法は、等電位ボンディングメカニズムとサーバラックのマニュアルを参照してください。



## 📖 設置作業：ステップ7

USB ドングルをデバイスに接続します。

1. USB ドングルをデバイスの USB ポートに接続します。



**重要：**

dongleserver Pro のみ：  
必要に応じて、最大 2 台の USB ドングルをケーブルでデバイスに接続できます。  
ただし、3m 以内の短い USB ケーブルを使用してください。  
他のすべての USB ドングルは、直接 USB ポートに接続しなくてはなりません。

2. 複数の USB ドングルを接続する場合は、手順 1 を繰り返します。

## 📄 設置作業：ステップ 8

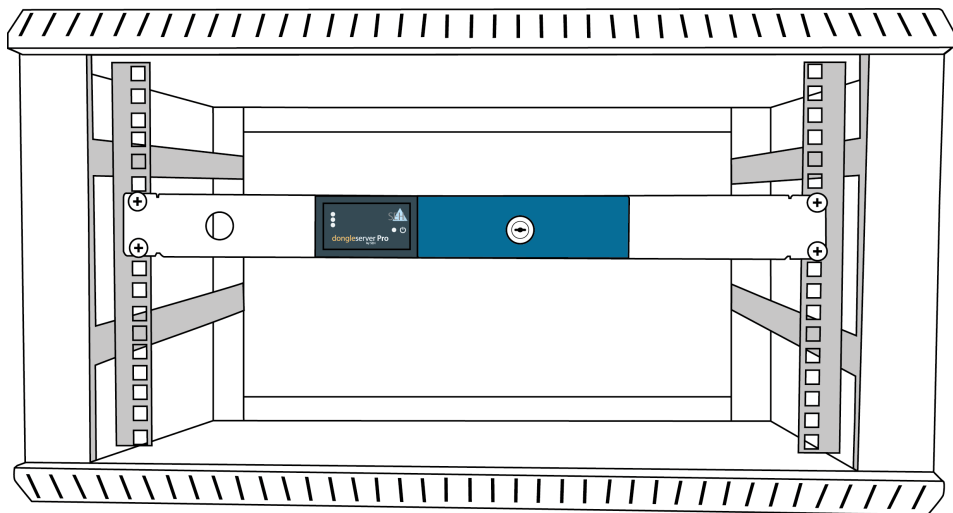
RMK4 をデバイスと一緒にサーバラックに設置します。



### 重要：

サーバラックへのマウントに使用するネジ類は付属していません。サーバラックのマニュアルを参照して、必要なネジ類を確認してください。

1. サーバラックの任意の設置位置に、デバイスを水平に挿入します。
2. 設置フレームの穴を使用して、デバイスの両側を（各ネジ 2 個）ラックに取り付けます。



## 📄 設置作業：ステップ 9

ネットワークと電源を接続します。

1. ネットワークケーブルをネットワーク側に接続します。  
接続方法は、使用するネットワーク側のマニュアルを参照してください。
2. 電源コードをサーバラックの電源に接続します。  
接続方法は、サーバラックと電源システムのマニュアルを参照してください。



## 📖 デバイスの利用 (Push-to-Open)

RMK4にはプッシュオープナーが付属しています。デバイスの可動設置(方法1: 可動設置 ⇒ 17)を選択した場合、デバイスはこのpush-to-open技術により、設置フレームから前面にわずかに引き出し、再度元の位置に戻すことができます。



### 重要：

デバイスは、RMK4内のガイドレール上を移動します。  
デバイスを完全に取り外すことはできません。

デバイスを前面に引き出すと、USB ドングルや TSE モジュールの接続などの作業が容易に実施できます。

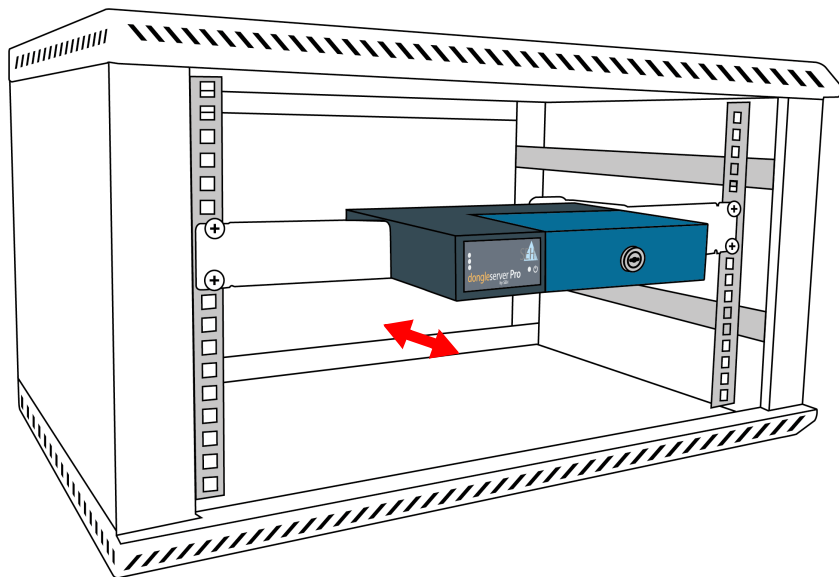


### 重要：

デバイスは、USB ドングルやの接続や保守の目的以外で引き出さないでください。

### 前面への引き出し

1. デバイスの中央をゆっくり押し下げます。  
クリック音がするとプッシュオープナーが解除され、デバイスが1cm程度前面に移動します。
2. デバイスを、任意の位置まで前方に引き出します。
3. これで、デバイスに必要な作業を実行することができます。  
作業完了後、デバイスを設置フレームの元の位置に完全に戻してください。⇒ 16



## 元の位置に戻す

1. デバイスを設置フレームの後方に動かします。  
デバイスは、前面に 1cm 程度飛び出した位置で容易に動かなくなります。
2. デバイスの中央をゆっくり押し下げます。  
デバイスの動きに抵抗がなくなり、クリック音がするとプッシュオープナーが元の位置にロックされます。

## メーカー：

SEH Computertechnik GmbH  
Suedring 11  
33647 Bielefeld, Germany  
電話：+49 (0)521 94226-29  
FAX：+49 (0)521 94226-99  
サポート：+49 (0)521 94226-44  
Email：info@seh.de  
Web: <http://www.seh.de>



## 重要なインターネットリソース：

技術サポート連絡先：

<http://www.seh-technology.com/jp/services/support.html>

販売店情報：

<http://www.seh-technology.com/company/management-and-staff/seh-sales-team.html>

ダウンロード：

<http://www.seh-technology.com/jp/services/downloads.html>

© 2023 SEH Computertechnik GmbH

この文書に記載されている商標、登録商標及び製品名は、それぞれの会社（所有者）に帰属します。

本文書の記載事項は予告なく変更されることがあります。

この製品マニュアルには、製品に関する有益な情報が記載されています。製品の使用中は、常に参照できるように保管しておいてください。